

エコアクション21 環境経営レポート

2023年度版

(運用期間: 2023年9月1日～2024年8月31日)



発行日 2024年12月16日

発行責任者: 環境管理責任者 木庭 一彰

安田建設株式会社

目 次

1. 組織の概要	-----	1
2. 対象範囲(認証・登録の対象組織・活動)	-----	1
3. 環境経営方針	-----	2
4. 実施体制	-----	3
5. 環境経営目標	-----	4
6. 環境経営計画及び取組内容	-----	5
7. 環境経営目標の実績	-----	7
8. 環境経営計画の取組結果とその評価、今後の取組内容	-----	8
9. 次年度の計画	-----	10
9-1. 環境経営目標		
9-2. 環境経営計画	-----	11
10. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果並びに違反・訴訟等の有無	-----	13
11. 代表者による全体評価と見直しの結果	-----	13

1. 組織の概要

- (1)事業所名 安田建設株式会社
- (2)代表者名 代表取締役 安田 光慶
- (3)所在地 〒812-0044 福岡県福岡市博多区千代5-1-1
- (4)環境管理責任者 総務部 木庭 一彰
- (5)EA21事務局 総務部 木庭 一彰
- (6)連絡先
TEL: 092-645-2030
FAX: 092-645-2033
E-mail: yasuda.k@bridge.ocn.ne.jp
URL: <http://yasuda-gr.com/>
- (7)事業内容 福岡県知事 許可(特-3)第72444号
- ・土木工事業
 - ・水道施設工事業
 - ・とび・土工工事業

(8)事業規模

項 目	単 位	2022年度	2023年度
売上高	千円	201,612	80,000
従業員数	人	7	7
床面積	m ²	225	225

- (9)事業年度 9月～翌年8月

2. 対象範囲(認証・登録の対象組織・活動)

全組織・全活動を対象

- (1)対象組織 安田建設株式会社 本社
〒812-0044 福岡市博多区千代5-1-1
- (2)対象活動 土木工事業、水道施設工事業、とび・土工工事業

3. 環境経営方針

企業理念

社業を通じ
平和で豊かな地域社会作りに寄与する。

環境理念

安田建設株式会社は、建設業の活動を通じ、地球規模での環境保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、環境に配慮した持続可能な社会の構築に貢献します。

行動指針

当社は、事業活動における環境への影響を理解し、環境経営を優先課題と位置づけて、環境経営システムを構築・運用し、従業員と協力して継続的改善とより良い環境づくりに努め、以下の事項について自主的、積極的に取り組みます。

1. SDGs(持続可能な開発目標)を道しるべとすべく取り組みます。
2. 適用される環境関連法規等を遵守します。
3. 当社は、次の環境活動を計画的に取り組み実施します。
 - ① 電気使用量及び重機車両の燃料使用量を減らし、CO₂の排出量を削減します。
 - ② 建設廃棄物については、分別を積極的に実施することにより建設リサイクルを推進し、廃棄物排出量を削減します。
 - ③ 水使用量の削減に努めます。
 - ④ グリーン購入の拡大を推進します。
 - ⑤ 環境活動の社会貢献を推進します。
 - ⑥ 環境経営を推進する取組に努めます。
4. この環境経営方針は全従業員に周知、徹底します。

制定：2012年11月1日

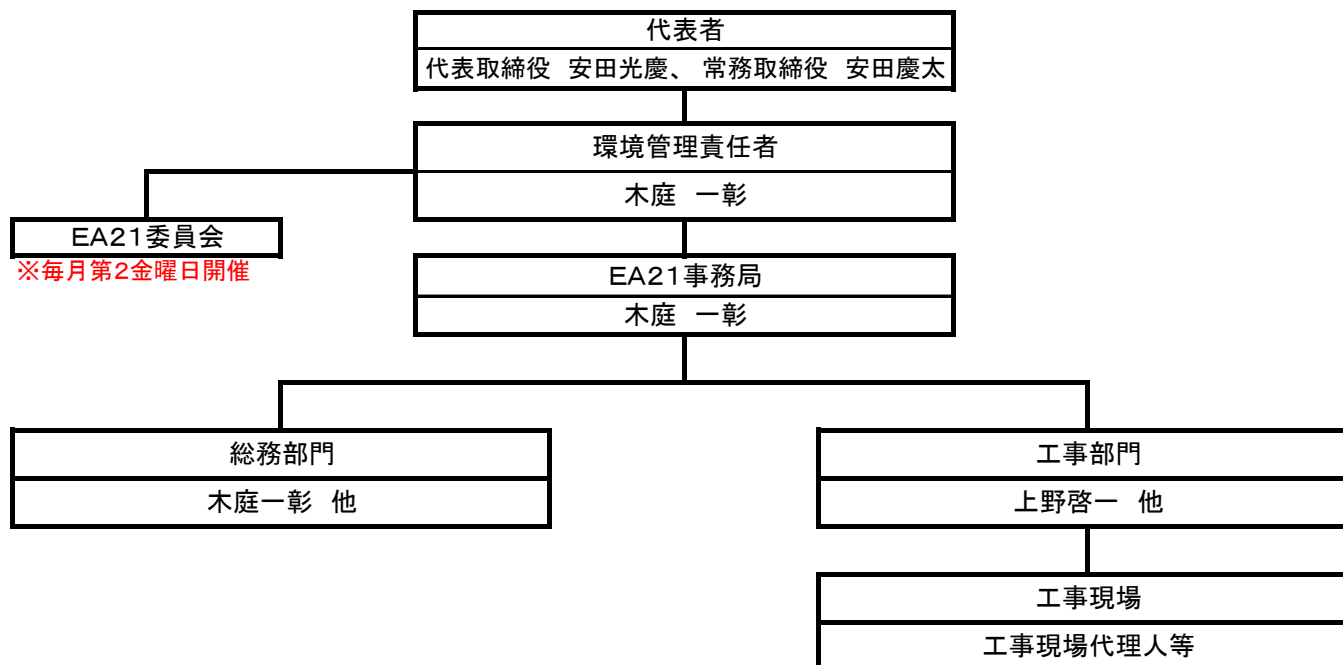
改定：2022年 4月5日

安田建設株式会社

代表取締役 安田 光慶

4. 実施体制

- ・当社のエコアクション21の実施体制は、以下のとおりです(2021年5月16日に変更)。



役割、責任及び権限一覧

担 当	内 容
代表者	①環境経営システムに関する全ての責任と運用についての権限を持つ。
	②環境経営システムの構築・運用・管理に必要な資源を用意する。 (資源には、人材、設備、費用、時間、専門的な技能、技術を含む。)
	③環境管理責任者を任命する。
	④環境経営方針の策定・見直し及び従業員への周知を行なう。
	⑤代表者による全体の評価と見直しを実施する。
環境管理責任者	①環境経営システムを構築し、実施し、管理する。
	②作成された環境への負荷及び取組の自己チェックを確認し承認する。
	③法規制等の遵守状況をチェックする。
	④環境経営方針及び自己チェック等に基づき環境経営目標を設定し、作成された環境活動計画を確認し承認する。
	⑤環境活動の取組状況を確認し、環境目標の達成状況を評価する。
	⑥問題点の是正、予防処置に対する指示と改善や見直しに必要な処置を行なう。
	⑦環境活動の取組結果を代表者へ報告する。
	⑧EA21に関する運用管理の体制を構築し、各責任者を任命する。
EA21委員会	①システムの運用状況や取組状況を定期的に確認・審議をする。〈毎月第2金曜日開催〉
	②運用データの共有・分析・評価。
	③問題点の早期発見と必要な是正処置の検討をする。
EA21事務局	①環境経営システム運営のすべての事務を行なう。
	②環境への負荷及び取組の自己チェックを作成し、環境管理責任者へ報告する。
	③「環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況チェックリスト」を作成し、環境管理責任者へ報告する。
	④環境活動計画並びに運用手順書を作成し、実施達成状況を集計し、環境管理責任者へ報告する。
	⑤文書及び記録の管理保管。
	⑥外部コミュニケーションの窓口。
	⑦内部コミュニケーションの運営管理。
	⑧従業員に対する教育訓練の実施。
	⑨特定された緊急事態に対する項目の手順書作成、テスト・訓練・記録。
各部門長及び 工事現場代理人	①責任範囲の環境目標及び環境活動計画の実施とEA21事務局への達成状況の報告。
	②責任範囲の問題点の発見、是正、予防処置。

5. 環境経営目標

- ・当社では、2012年12月1日からエコアクション21による環境への取組を開始しました。
- ・本年度(2023年度)は、事務所を2019年度実績値、建設現場を2022年度(実績値)を基準年度として、単年度と中長期目標を設定しました(2022年度より、建設現場部門のみ変更➡数字上乖離があるため)。
- ・負荷削減項目については、毎年度、基準年度の0.5%ずつの削減を目標としました。なお、事務用品のグリーン購入は、プラス1%、建設資材はプラス0.5%としました。

【事務所】			単年度目標		中長期目標	
環境経営目標	単位	基準年度	2023年度 (2023.9～2024.8)		2029年度 (2029.9～2030.8)	
		(2019年度) 2019.9～ 2020.8	目標値	増減率	目標値	増減率
1 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	5,882	5,764	-2.0%	5,588	-5.0%
(1)電気使用量の削減	kWh	11,380	11,152	-2.0%	10,811	-5.0%
(2)ガソリン使用量の削減	ℓ	715	701	-2.0%	679	-5.0%
2 廃棄物排出量(一般廃棄物)の削減	kg	653	640	-2.0%	620	-5.0%
3 水使用量の削減	m ³	91	89	-2.0%	86	-5.0%
4 グリーン購入(事務用品)の推進	% (購入個数)	71	75	+4.0%	81	+10.0%
5 社会貢献活動の実施	回	12	12	-	12	—

【建設現場】			単年度目標		中長期目標	
環境経営目標	単位	基準年度	2023年度 (2023.9～2024.8)		2029年度 (2029.9～2030.8)	
		(2022年度) 2022.9～ 2023.8	目標値	増減率	目標値	増減率
1 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	10,499	10,447	-0.5%	10,132	-3.5%
(1)ガソリン使用量の削減	ℓ	843	839	-0.5%	813	-3.5%
(2)軽油使用量の削減	ℓ	3,293	3,277	-0.5%	3,178	-3.5%
2 廃棄物排出量(産業廃棄物)の削減 (1)リサイクル率100%の維持	% (リサイクル率)	100	100	±0	100	±0
3 グリーン購入(建設資材)の推進	% (調達再生資材の割合)	87.5	88.0	+0.5%	91.0	+3.5%
4	環境経営を推進する取組	% (環境配慮型重機の導入現場割合)	100	±0	100	±0
	(1)環境に配慮した施工の推進					
	(2)工事評価点の向上	点 (工事評価点)	80	-	80	-
	(3)人材確保への取組	人	0	-	3	-

- ・二酸化炭素排出量については、購入電力の排出係数は0.371kg-CO₂/kWh(2019年度 九州電力㈱調整後排出係数)を使用した。
- ・当社では化学物質を直接使用していないので、目標から除外した。
- ・増減率について、増加は+0.5、減少は-0.5を目標値(前年度より)とする。但し、グリーン購入(事務)は+1%とする。
- ・工事評定80点以上については、一現場ごとの目標になるので、工期終了後に記録するものとする。

6. 環境経営計画及び取組内容

・環境経営目標を達成するために、取り組んだ環境活動は、以下のとおりでした。

【事務所】

1. 二酸化炭素排出量の削減（責任者：木庭 活動時期：通年）

(1) 電気使用量の削減

- ①エアコンの設定温度を冬(11月～4月) 22℃ ±2℃。夏(6月～9月)は、26℃ ±2℃。
・ウォームビズ・クールビズを心掛ける
- ②不要な照明の消灯
・休憩時間や使用していないエリアの消灯
- ③退出・未使用時のOA機器の主電源OFF

環境管理責任者コメント： エアコン設定は、無理ない範囲で設定し、不要な使用をしないことを心掛けた。

(2) ガソリン使用量の削減

- ①エコドライブの実施
・急発進、急ブレーキ等の禁止
- ②アイドリングストップの実施
・駐停車時エンジンストップ

環境管理責任者コメント： 工程会議時に、声掛けを実施し意識付けを定期的にした。

2. 廃棄物排出量(一般廃棄物)の削減（責任者：木庭 活動時期：通年）

(1) 可燃・不燃ごみの排出量削減

- ①分別の徹底(ゴミの量を計測しながら、削減を目指す)
- ②両面・複数ページ印刷の推進、裏紙使用の徹底によるコピー用紙の削減

環境管理責任者コメント： EA21委員会で、毎回徹底を伝達した。

(2) リサイクル活動

- ①段ボールの処理をリサイクル業者に依頼

管理責任者コメント： 燃えるゴミに出すのではなく、リサイクルに出すように心掛けた。

3. 水使用量の削減(責任者：木庭 活動時期：通年)

(1) 節水活動

- ①節水の声掛けやポスター等の掲示
- ②水の出しっぱなしをせずに、こまめに開閉する

管理責任者コメント： 実際に仕様状況の確認を行った。

4. グリーン購入(事務用品)の推進(責任者：木庭 活動時期：通年)

(1) グリーン対象商品を優先的に購入

- ①購入に占める割合向上を目指す

管理責任者コメント： 商品カタログから選択するときに、比較する物があれば対象品を購入した。

5. 社会貢献活動の実施(責任者:上野 活動時期:通年)

- (1) 毎月1回、事務所周辺の道路清掃を行う
- (2) 加盟協会等のボランティア活動に参加する

環境管理責任者コメント: 日々の清掃を怠らず、他に月に数回実施するときは、念入りに社員でなるべく全員参加を心掛けた。

【建設現場】

1. 二酸化炭素排出量の削減(責任者:側島 活動時期:通年)

(1) ガソリン使用量の削減

- ① 現場移動の効率化
 - ・乗り合わせ及び最短ルートによる移動
- ② エコドライブの実施
- ③ アイドリングストップの実施

環境管理責任者コメント: 社有車を使っていることを強く認識してもらい、安全運転をしてもらい、削減に努めてもらった。

(2) 軽油使用量の削減

- ① 建設機械の使用時間短縮
 - ・無駄な時間の無いように、作業前の打ち合わせを実施
- ② 状況の確認や評価の在り方を検討し、次年度の目標達成の方向性を示す

環境管理責任者コメント: 基準年度を2022年実績値に変更した。

2. 廃棄物排出量(産業廃棄物)の削減(責任者:木庭 活動時期:通年)

(1) 産業廃棄物の削減

- ① 分別の徹底、適正な処理→マニフェストによる処理確認
- ② リサイクル率の100%を目標とする

環境管理責任者コメント: 下請けが問題なく処理することを現場代理人が確認している。

3. グリーン購入(建設資材)の推進(責任者:側島 活動時期:通年)

- (1) 対象建設資材の調査継続 →取り組みの向上に向けて
- (2) 購入割合の向上を目指す

環境管理責任者コメント: 元請として購入した資材が少なかった。

4. 環境に配慮した施工の推進(責任者:上野 活動時期:通年)

- (1) 低騒音・低振動型など、環境対応重機の現場導入割合100%
周辺住民等への事前情報開示の徹底(施工現場の自治会に対して)
 - ① 清掃活動や防犯パトロール等の実施
 - ② 定期的な自治会等への工事進捗の説明
 - ③ 情報発信の検討(環境活動レポートの周知、ホームページの活用等)

(2) 福岡市公共工事の評価点80点を目指す

(3) 人材確保を目指し、中途採用者の雇用活動をする

環境管理責任者コメント: 次年度に工事が終わるので、評価点取れる動きをしたい。
今年度の人材確保は出来ていない。

7. 環境経営目標の実績

- ・2023年度(2023.9～2024.8)における環境経営目標の達成状況は以下のとおりです。
- ・事務所については、電気使用量の削減について、わずかに下回り目標達成出来ていません。また、事務用品の購入割合が低くなってしまった。建設現場は全項目で目標を達成出来ました。施工状況の変化に伴い、施工管理の部分が増えたことも影響していると考えられます。
- ・ただ、建設現場の「人材確保への取組」が達成できていないので、引き続き取り組みます。今期中に施工が終了した現場が無いので、工事評定点は判定していません。

【事務所】

環境経営目標	単位	基準年度	2023年度(2023.9～2024.8)		目標達成率	達成状況判定
		2019年度実績値	目標値	実績値		
1 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	5,882	5,764	5,964	96.6%	△
(1)電気使用量の削減	kWh	11,380	11,152	12,787	87.2%	△
(2)ガソリン使用量の削減	ℓ	715	701	526	133.3%	◎
2 廃棄物排出量(一般廃棄物)の削減	kg	653	640	536	119.4%	○
3 水使用量の削減	m ³	91	89	68	131.0%	◎
4 グリーン購入(事務用品)の推進	% (購入個数)	71	75	49	49.4%	×
5 社会貢献活動の実施	回数	12	12	26	100.0%	○

【建設現場】

環境経営目標	単位	基準年度	2023年度(2023.9～2024.8)		目標達成率	達成状況判定
		2022年度実績値	目標値	実績値		
1 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	10,499	10,447	7,893	132.7%	◎
(1)ガソリン使用量の削減	ℓ	843	839	582	144.2%	◎
(2)軽油使用量の削減	ℓ	3,293	3,277	2,535	129.3%	◎
2 廃棄物排出量(産業廃棄物)の削減 (1)リサイクル率100%の維持	% (リサイクル率)	100	100	100	100.0%	○
3 グリーン購入(建設資材)の推進	% (調達再生資材の割合)	87.5	88	100	114.3%	○
環境経営を推進する取組	% (環境配慮型重機の導入現場割合)	100	100	100	100%	○
(1)環境に配慮した施工の推進						
(2)工事評定の向上	点 (工事評価点)	80	80	-	-	-
(3)人材確保への取組	人	0	1	0	0%	×

		基準年度	目標値	実績値	目標達成率	達成状況
全社二酸化炭素排出量(合計)	kg-CO ₂	16,381	16,211	13,857	117.0%	○

※事務所と建設現場合計

- 【達成状況区分】
- ◎→目標達成率120%以上
△→80%以上100%未満
×→80%未満

○: 100%以上120%未満
—: 判定不可

増加目標: 実績値÷目標値×100
削減目標: 目標値÷実績値×100

8. 環境経営計画の取組結果とその評価、今後の取組内容

- ・2023年度(2023.9～2024.8)における環境経営計画の実施状況は以下のとおりです。
- ・事務所及び建設現場共に、取組は適切に実施され、定着状態に入っています。

【事務所】

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標		活動項目	実施状況	評価及び今後の取組内容
1	電気使用量の削減	① エアコンの適正温度設定	◎	<現状> 実績値としては、電気使用量と二酸化炭素の排出がわずかに未達となっておりますが、各項目とも問題なく取り組んでいる。 <今後> 各活動項目とも重要だと考えているので、このまま継続をする。照明に関しては、順次LED照明に変更していく。
		② 不要な照明の消灯	◎	
		③ OA機器の主電源OFF	◎	
2	ガソリン使用量の削減	① エコドライブの実施	◎	
		② アイドリングストップの実施	◎	

2. 廃棄物排出量(一般廃棄物)の削減

取組目標		活動項目	実施状況	評価及び今後の取組内容
1	排出量の削減	① 分別の徹底	◎	<現状> 古紙の回収が増え、これまで燃えるゴミで出していたものをリサイクルに回せるので、分別を徹底することにより、リサイクルに繋げていく。 <今後> 引き続き、分別を徹底してリサイクルに努めるとともに、排出削減の努力をしていく。
		② 両面印刷の推進、裏紙使用	◎	
2	リサイクル活動	① 再生紙のリサイクル(古紙)	◎	

3. 水使用量の削減

取組目標		活動項目	実施状況	評価及び今後の取組内容
1	節水活動	① 節水の声掛けやポスター等の掲示	◎	<現状> マンネリ化しないように、会議等を利用して意識付けを行っている。 <今後> 他社の事例検討をし、当社にあった活動を追加していく。
		② 無駄な流水の抑制	◎	

4. グリーン購入(事務用品)の推進

取組目標		活動項目	実施状況	評価及び今後の取組内容
1	グリーン購入の推進	① 対象事務用品を優先的に購入(購入に占める割合向上を目指す)	◎	<現状> カタログもマークが付いているのを優先的に探して購入している。 <今後> 来年度も引き続き、購入割合の向上を目指す。このまま継続。

5. 社会貢献活動の実施

取組目標		活動項目	実施状況	評価及び今後の取組内容
1	社会貢献活動の実施	① 事務所周辺の掃除	◎	<現状> 継続できている。植栽をきれいに保つなど積極的に活動している。 <今後> ボランティア参加を増やす
		② 加盟協会等のボランティア参加	◎	

実施状況の判定区分: ◎→よく実施出来ている(定着)、○→実施出来ている
△→実施出来ているが不十分、×→実施出来ていない、―→判定できない

【建設現場】

1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標		活動項目	実施状況	評価及び今後の取組内容
1	ガソリン使用量の削減	① 現場移動の効率化	◎	<現状> 取組としては、問題ないと感じている。元請現場は2件あるが、作業は下請け企業を中心に行うので、弊社の使用量は多くない。
		② エコドライブの実施	◎	
		③ アイドリングストップの実施	◎	
2	軽油使用量の削減	① 建設機械の使用時間短縮	◎	<今後> 評価の在り方については、より良い方法があるかの検討は継続したい。
		② 状況の確認や評価の在り方を検討	○	

2. 廃棄物排出量(産業廃棄物)の削減

取組目標		活動項目	実施状況	評価及び今後の取組内容
1	産業廃棄物の削減	① 分別の徹底、適正な処理	◎	<現状> 元請現場があるが、施工管理がメインの為、検査が終わらないと、数値が出てこない。元請として対応した数値が出たのは少なかった。
		② リサイクル率100%を維持	◎	

3. グリーン購入(建設資材)の推進

取組目標		活動項目	実施状況	評価及び今後の取組内容
1	グリーン購入の推進	① 対象建設資材の調査継続	◎	<現状> 事務所と同じく、グリーン対象の購入は重要だと認識しているので、環境意識を高めるうえで良い活動だと思います。
		② 購入割合の向上	◎	

4. 環境に配慮した施工の推進

取組目標		活動項目	実施状況	評価及び今後の取組内容
1	環境に配慮した施工の推進	① 環境対応重機の導入100% 周辺住民等への事前情報開示	◎	<現状> 前年度同様、表彰受けるべく2現場を施工中。人材確保への取組は取り組んでいるが、成果が出ていない。
		② 工事評価点80点以上を目指す	-	
		② 人材確保を目指し、採用活動をおこなう。	△	

実施状況の判定区分: ◎→よく実施出来ている(定着)、○→実施出来ている
△→実施出来ているが不十分、×→実施出来ていない、- →判定できない

9. 次年度の計画(2024年度)

・今年度(2023年度)の運用成績を踏まえて、次年度(2024年度)計画を下記の通りとします。

9-1. 環境経営目標

※建設現場については、基準年度を2022年に変更した

【事務所】			単年度目標		中長期目標	
環境経営目標	単位	基準年度	2024年度 (2024.9～2025.8)		2030年度 (2030.9～2031.8)	
		(2019年度) 2019.9～ 2020.8	目標値	増減率	目標値	増減率
1 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	5,882	5,735	-2.5%	5,558	-5.5%
(1)電気使用量の削減	kWh	11,380	11,096	-2.5%	10,754	-5.5%
(2)ガソリン使用量の削減	ℓ	715	697	-2.5%	676	-5.5%
2 廃棄物排出量(一般廃棄物)の削減	kg	653	637	-2.5%	617	-5.5%
3 水使用量の削減	m ³	91	89	-2.5%	86	-5.5%
4 グリーン購入(事務用品)の推進	% (購入個数)	71	76	5.0%	82	+11.0%
5 社会貢献活動の実施	回	12	12	-	12	—

【建設現場】			単年度目標		中長期目標	
環境経営目標	単位	基準年度	2024年度 (2024.9～2025.8)		2030年度 (2030.9～2031.8)	
		(2022年度) 2022.9～ 2023.8	目標値	増減率	目標値	増減率
1 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO ₂	10,499	10,394	-1.0%	10,079	-4.0%
(1)ガソリン使用量の削減	ℓ	843	835	-1.0%	809	-4.0%
(2)軽油使用量の削減	ℓ	3,293	3,260	-1.0%	3,161	-4.0%
2 廃棄物排出量(産業廃棄物)の削減 (1)リサイクル率100%の維持	% (リサイクル率)	100	100	±0	100.0%	±0
3 グリーン購入(建設資材)の推進	% (調達再生資材の割合)	87.5	88.5	+1.0%	91.5	+4.0%
環境経営を推進する取組	% (環境配慮型重機の導入現場割合)	100	100	±0	100	±0
(1)環境に配慮した施工の推進						
4 (2)工事評価点の向上(80以上)	点 (工事評価点)	80	80以上		80以上	
(3)人材確保への取組	人	0	1	-	3	-

(備考)

- ・二酸化炭素排出量については、購入電力の排出係数は0.371kg-CO₂/kWh(2019年度 九州電力㈱調整後排出係数)を使用した。
- ・当社では化学物質を直接使用していないので、目標から除外した。
- ・工事評定80点以上については、一現場ごとの目標になるので、工期終了後に記録するものとする。
- ・増減率について、増加は+0.5、減少は-0.5を目標値(前年度より)とする。但し、グリーン購入(事務)は+1%とする。
- ・現場人材の確保という観点から、「建設現場」目標に、人材確保への取組を目標に据えた(2022年度～)。

9-2. 環境経営計画

【事務所】

1. 二酸化炭素排出量の削減（責任者：木庭 活動時期：通年）

- (1) 電気使用量の削減 **※事務所蛍光灯のLED化を検討**
 - ①エアコンの設定温度を冬（11月～4月） 22℃ ±2℃。 夏（6月～9月）は、26℃ ±2℃。
 - ・ウォームビズ・クールビズを心掛ける
 - ②不要な照明の消灯
 - ・休憩時間や使用していないエリアの消灯
 - ③退出・未使用時のOA機器の主電源OFF
- (2) ガソリン使用量の削減
 - ①エコドライブの実施
 - ・急発進、急ブレーキ等の禁止
 - ②アイドリングストップの実施
 - ・駐停車時エンジンストップ

2. 廃棄物排出量（一般廃棄物）の削減（責任者：木庭 活動時期：通年）

- (1) 可燃・不燃ごみの排出量削減
 - ①分別の徹底（ゴミの量を計測しながら、削減を目指す）
 - ②両面・複数ページ印刷の推進、裏紙使用の徹底によるコピー用紙の削減
- (2) リサイクル活動
 - ①再生紙のリサイクルを積極的に取り組む

3. 水使用量の削減（責任者：木庭 活動時期：通年）

- (1) 節水活動
 - ①節水の声掛けやポスター等の掲示
 - ②水の出しっぱなしをせずに、こまめに開閉する

4. グリーン購入（事務用品）の推進（責任者：木庭 活動時期：通年）

- (1) グリーン対象商品を優先的に購入
 - ①購入に占める割合向上を目指す

5. 社会貢献活動の実施（責任者：上野 活動時期：通年）

- (1) 毎月1回、事務所周辺の道路清掃を行う
- (2) 加盟協会等のボランティア活動に参加する

【建設現場】

1. 二酸化炭素排出量の削減（責任者：側島 活動時期：通年）
 - (1) ガソリン使用量の削減
 - ①現場移動の効率化
 - ・乗り合わせ及び最短ルートによる移動
 - ②エコドライブの実施(急発進、急ブレーキ等の禁止)
 - ③アイドリングストップの実施
 - (2) 軽油使用量の削減
 - ①建設機械の使用時間短縮
 - ・無駄な時間の無いように、作業前の打ち合わせを実施
2. 廃棄物排出量（産業廃棄物）の削減（責任者：側島 活動時期：通年）
 - (1) 産業廃棄物の削減
 - ①分別の徹底、適正な処理→マニフェストによる処理確認
 - ②リサイクル率100%維持を目標とする
3. グリーン購入（建設資材）の推進(責任者：側島 活動時期：通年)
 - (1) 対象建設資材の調査継続 →取り組みの向上に向けて
 - (2) 購入割合の向上を目指す
4. 環境経営を推進する取組（責任者：上野 活動時期：通年）
 - (1) 低騒音・低振動型など、環境対応重機の現場導入割合 100%
 - ①周辺住民等への事前情報開示の徹底（施工現場の自治会に対して）
 - ②清掃活動や防犯パトロール等の実施
 - ③定期的な自治会等への工事進捗の説明
 - ④情報発信の検討（環境活動レポートの周知、ホームページの活用等）
 - (2) 公共工事の評価点向上(80点) を目指す
 - (3) 人材確保を目指し、中途採用者の雇用活動をする。
→現場作業の人材、採用者の最低1人雇用を目指す

10. 環境関連法規等の遵守状況の確認、及び評価結果並びに違反・訴訟等の有無

・当社に適用される主な環境関連法規は以下のとおりであり、2023年度での遵守確認をした結果、法令違反はありませんでした。

・また、関係機関からの違反の指摘、利害関係者からの訴訟なども過去3年間ありませんでした。

主な環境関連法規	主な遵守事項	遵守
廃棄物処理法	・マニフェスト管理	○
建設リサイクル法	・建築物の設計、資材の種類等の計画等所定の事項を届出	○
資源有効利用促進法	・再生資源、再生部品を利用するように努めなければならない	○
騒音規制法	・騒音の規制基準の遵守	○
振動規制法	・振動、作業時間の規制基準の遵守	○
地球温暖化対策推進法	・温室効果ガスの排出抑制	○
道路交通法	・整備不良車両運転の禁止	○
フロン排出抑制法	・エアコンの簡易点検	○
グリーン購入法	・できる限り環境物品を選択するように努める	○

備考) 遵守判定 ○: 遵守 ×: 不適切 -: 該当なし

11. 代表者による全体評価と見直しの結果

＜総評＞

・建設現場部門として、1つ目の現場が23年12月～、2つ目の現場が24年6月～と2023年度(2023年9月～2024年8月)で一年を通しての現場とはなっていないが、事務部門においては、出来る範囲で取り組めていました。

・以前の審査において、環境経営に寄与できる活動を取り入れて欲しいという事を指摘され、工事評点の向上と「人材確保への取組」を取り入れた。工事評定は前回成果が出たが、人材確保は難しい状況が続いている。引き続き継続して経営に寄与した活動にしていく事を期待します。

＜取組の評価＞

・新しく取り組んだ目標を達成できた点と出来ていない点があるので、よい相乗効果が見られることを願っています。各項目とも習熟してきているので、新たな活動を期待しています。

・昨年に引き続き、社員が減り大変な中、雇用確保に努め、強力に活動を進められる体制作りを考えています。

・今後も、事務部門と工事部門の連携をより図りながら、環境負荷削減に努めていく事を願います。

＜見直しの結果＞

・エコアクション21の担当者の負担もあり、改善の余地がある部分もありますが、これまでの審査員の方のご指摘で経営に寄与している改善もあるので、引き続き進めていってくれることを願います。